

小正月行事のいろいろ

～ご存知ですか？お隣りさんのどんど焼き～

1月14日の小正月。今年は大雪となりましたが、市内各地で美しく飾られた道祖神やどんど焼き(※1)の風景に出会えました。山梨は全国でも小正月行事が盛んといえ、市内各地でバリエーションが豊富なのも特徴です。



芦安地区では道祖神にヌルテの木で作った刀や男性のシンボルなどを模したものをお供えし、厄払いや子孫繁栄などを祈る風習が伝わります(写真は大曾利地区)。顔の描かれたものは「オホンダレサマ」と呼ばれています。

かつて小正月には、市内各地の道祖神場に神様を迎えるための目印である「神木」と、仮の神殿である「小屋」が飾られ、夜には人々が集まりどんど焼きを行いました。神と人が交流する場といえます。現在でも市内の約8割の地域でどんど焼きはおこなわれています

「神木」

神木の飾りには県内に多い「オヤナギ」と呼ばれる柳形や、菱形の飾り、また、南アルプス市独特といえる梵天をさす飾りもあります。

「小屋」と「どんど焼き」

「オコヤ」とも呼ばれ、曲輪田峯村小路の小屋形や、インディアンのようなティピーのような円錐形(※2)、さらに四角柱形などがあります。甲西地区戸田や宮沢の「オコヤ」は規模が大きく圧巻です。どんど焼きでは蘭玉と呼ばれる団子を焼き無病息災を願います。養蚕の豊作を願った名残りといえます。

かつては小正月に獅子舞は付き物でした。今でも下市之瀬や曲輪田では「ムラマワリ」といって全戸を舞い巡る伝統が継承されています。鏡中條のように獅子頭だけを供え、かつての名残を伝える地域もあります。

時代とともに変容しながらも、市内各地にはまだまだくさんの特色のある行事が受け継がれています(※3)。新春の南アルプス市を彩る伝統の魅力といえますね。



「オコヤ」の主な材料も土地ごとで変わり、水田地帯や市内の多くではわらを、山間では山の木を用います(築山)。



柳形の神木の飾りで、市之瀬台地周辺の地域では「フシノヤマ」と呼びます(中野)。平岡ではこの飾り付けの一連の作業全体を呼ぶなど、独特なものといえます。



戸田のオコヤは4 m四方の四角柱形で市内最大といえ、男性陣が中心に組み上げます。かねてより市内でも最も遅い時間に焼いたといわれます。



柳形と菱形、さらに梵天も組み合わせた独特な姿の神木もあります(平岡)。オヤナギはお祭の後には「火伏せ」といって各戸に配られ丸めて屋根に乗せます。



下市之瀬の獅子舞(県指定文化財)は雌獅子で、段物と呼ばれる獅子狂言を舞う点が特徴で、西南湖地区へと伝承されます。神木は梵天を差す形です。



曲輪田地区峯村小路は小屋形のオコヤに謡、獅子舞(市指定文化財)が伝わるなど、小正月の原風景を色濃く伝えます。



「どんど焼きの火であぶった団子を食べると虫歯にならない」とか、「風邪をひかない」「習字が高く舞い上がると上達する」などと言われます。かつてはこの灰を家の周りに撒いて蛇よけとしました(※4)。



円錐形のオコヤは芦安などの山間部から湯沢といった山裾地域に多く、四角柱は甲西地区の水田地帯に多いなど分布する範囲に特徴があります(写真は桃園)

※1 「どんど焼き」とも呼ばれます。 ※2 円錐形のオコヤの形を民俗学では「左義長(さぎちょう)形」と呼びます。「左義長」とは平安時代に遡るどんど焼きの起源ともされた行事を指すといわれます。 ※3 道祖神祭りのほかにも、上八田地区には小正月に百万遍念仏を唱える行事が伝わります。

※4 虫よけについては先月号でご紹介しています。 ※写真には過去のものも含まれます。